

畜ふんに対する水分調節材(副資材)の混入量、目安	生ふんとその水分	供 試 量	オガクズ(25~35%水分)混入量	モミガラ(10~15%水分)混入量
	牛ふん(80%)	100kg	43kg-160ℓ	27kg-75ℓ
	豚ふん(75%)	100kg	28kg-120ℓ	20kg-55ℓ
	鶏ふん(75%)	100kg	28kg-120ℓ	20kg-55ℓ

(注)1. 水分調節後の水分割合を70%と設定した場合。
2. 牛・豚については、若干尿の混入することを想定した水分割合である。

群馬県畜産試験場資料より

タヒロン規格

品 名	型 式	規 格・適 用	排 出 物
新タヒロン		φ1100×1100	全開菊割り8枚
自立型タヒロン	本体(部材含む)	φ1100×1100	全開菊割り8枚
オプション	ロッドA		
	蛇腹ホースセット		

耐用年数5年以上。超強力ポリエステルフィラメント系使用。塩化ビニール樹脂加工。敷料、糞尿、酸、アルカリ耐性に強い。

タヒロン マゼラー



マゼラー (型式 TMR-113)

混合部	容 積	1m ³ (有効容積 0.8m ³)
	供給方式	投込み式(フロントローダなど使用)
	攪拌方法	リボン式
	電 源	4極 三相 200V 50/60Hz
	出 力	3.7kw(60Hz)
	回転速度	10rpm
	寸 法	1126×2100×1800mm(長さ×幅×高さ)
搬送部	重 量	約800kg
	形 式	ベルトコンベア
	速 度	0.73m/s
	寸 法	4000×464×268mm(長さ×幅×高さ)
	重 量	約1100kg

タヒロン[®] マゼラー[®]
システム

畜ふん簡易堆肥化システム

マゼラー TMR-113(畜ふん混合機 安全鑑定適合 安全鑑定番号 35126)

畜産敷料等、有機物による堆肥化と土壌改良問題は専門研究機関によって大きくとりあげられ、作物の高品質化と生産性の向上をはかるため有機肥料の施用は、ますます重視されてきました。また、畜ふん等の堆肥化にともなう悪臭は法令(悪臭防止法)により規制されてきました。タヒロンはその一環として開発した移動式簡易堆肥器であります。



平成5年度 堆きゅう肥総合利用対策事業
遠州中央農業協同組合(500kg入-2685袋)
静岡県磐田市見付3599-1

登録協会員15名が5ブロックにわかれ、各ブロックで攪拌機1台を保持し、各自豚舎においてタヒロンに詰込み共同集積場所まで堆肥を作り熟成堆肥を共同作業場に運搬して小袋詰、其他作業する。

タヒロンの特徴

- 大規模な堆肥舎は不要です。
バック詰した畜ふん尿の発酵には特例を除き場所を選びませんから、堆肥舎は不要です。田、畑の空地等を利用して下さい。
- 堆肥の切り返しは不要です。
タヒロン内での発酵熱により、蒸発する水分の結露によってアンモニアが吸収され、外部の放散を阻止します。
- ふん尿の悪臭は低減します。
タヒロン内での発酵熱により、蒸発する水分の結露によってアンモニアが吸収され、外部の放散を阻止します。
- ハエの発生を防止します。
ふん尿中に含まれているハエの卵の大部分が発酵熱により死滅しますが、たとえ羽化したとしてもバックのメッシュより小さいウジの脱出はあってもメッシュより大きいハエ、ウジは外部に出ることができずタヒロン内で死滅します。

- 畜ふん尿の堆肥化には発酵剤は不要です。
家畜ふん尿は発酵に関与する微生物にとってきわめて恵まれた栄養を保持しているため、わざわざ発酵剤を購入して使用する必要はありません。

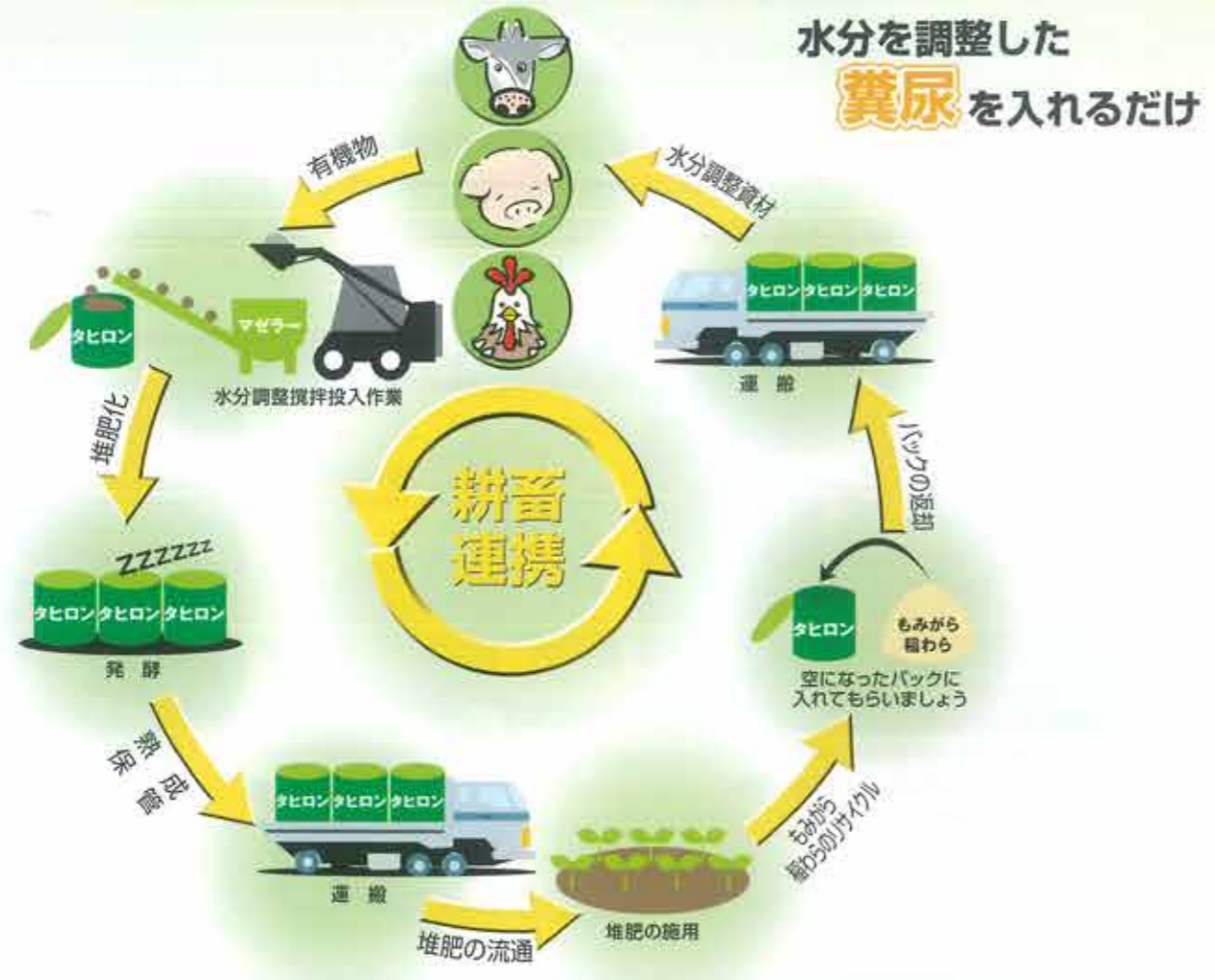
注

1. 畜ふん尿の水分は水分調整材で必ず水分率を60%~70%内に調整して下さい。
2. タヒロンへ投入する前、よく攪拌してかたまりをよくくずして下さい。
3. 外気温が5℃以下の場合は発酵が止まる場合がありますから、ビニール等で全体を覆って下さい。
4. 溝に渡したり、水の流れ込むところには置かないで下さい。
5. 畜ふん尿の発酵が終るまで(約60日)は上積しないで下さい。
6. タヒロンは空気の流通をよくするため、直接地面に置かないでパレット又はタルキ等の上へ置いて空隙をあけて下さい。

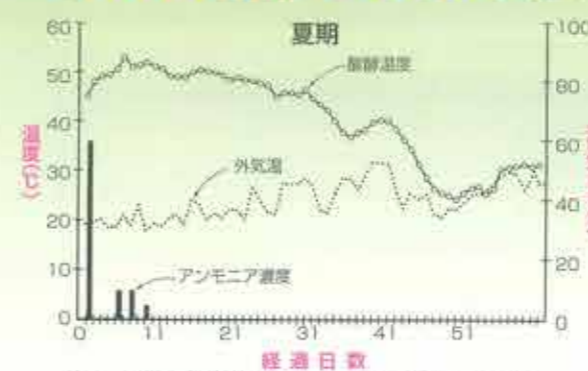
タヒロン®

特許第1714655号

大型堆肥バック方式



●タヒロン利用による臭気の実験 [滋賀県畜産技術センター]



1.実施期間
夏期: 1990年5月15日~7月15日 冬期: 12月11日~1991年1月22日
2.供試材料
搾乳牛ふん(水分82%)
副資材 夏期: 炭し堆肥 冬期: モミガラくん炭
3.臭気測定
アンモニア濃度: 北川式検知管で1日おきに測定
1991 No.5 畜産技術センターだよりより抜粋



図1 酸酵温度およびアンモニア濃度の変化

図2 発酵温度およびアンモニア濃度の変化

オプション(ロッドA・蛇腹ホース)をセットすると**自立型**に!!



ウジは急速発酵高温のため外部に出ることなくタヒロンのなかで殆ど死滅します。

タヒロンバックの数量の目安

	乳用牛	●1頭1日平均約40kgのふん ●ふんの平均水分率80%	× 20頭 = 150袋
	肉用牛	●1頭1日平均約17kgのふん ●ふんの平均水分率75%	× 20頭 = 60袋
	豚	●1頭1日平均約2.5kgのふん ●ふんの平均水分率75%	× 200頭 = 80袋
	採卵鶏	●1羽1日平均約0.1kgのふん ●ふんの平均水分率70%	× 2,000頭 = 40袋

注)水分調整資材はもみガラ(平均水分率10%)でタヒロンバック年間4回転で算出しています。
注)水分調整後の水分率は65%で設定しています。

●500kg詰用タヒロンによる発酵温度の推移

